

昨年度は大学生に関わりの深いメンタルヘルスのテーマを 1 年間取り上げてきました。大学生活は社会的責任からある程度自由に活動できます。しかしそれは社会問題と無関係ということではありません。むしろ、自由だからこそ、社会問題を考えることができる時期とも言えます。今年度は昨今の社会的な問題について取り上げていきたいと思えます。

「自己責任論」によって排除される人とは

「自己責任論」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。その名の通り、起こる結果はすべて本人の責任だとする考えです。これは成功者礼賛の裏側という面があります。つまり、成功している人は、その人の努力と才能によってその成功を獲得したのだという考えは、暗に「うまくいっていない人は何かしら努力を怠っているんだ」という含みを持つということです。

この考えが社会で暗に共有されていると、本人の責任ではない要因で困っている人は声を上げづらくなります。たとえば、障害を持つ人や、貧困家庭の人、外国出身の人などです。なぜかという、助けを求めても、「同じような状況でも努力している人はいるぞ!」とか、「あなたにも原因があるんじゃないの?」と言われてしまうからです。こうして、例外的な成功者だけがクローズアップされ、多くの困っている人は沈黙させられているのかもしれない。



実力も運の内

「運も実力の内」と言われたりします。自己責任論と相性のいい考えです。頑張っている人には運もついてくる、というわけですから。では、運がない人は頑張っていないとも言えるでしょうか。

実際には、不運な境遇でも頑張っている人はいます。それに、頑張れるかどうか境遇に左右されます。豊かな教育的・文化的環境を家庭が用意してくれたら、学ぶ意欲も湧くでしょう。「勉強なんか意味ない」という考えの家庭で学ぶ意欲を維持するのは至難の業でしょう。本人の実力だと思われがちな結果も、案外、運次第の境遇に左右されているのです。「実力も運の内」と言えるような現実が、実際にはあるわけです。

